

看取り体制の意義 (なぜ今必要なのでしょう か)

資料5-2

<看取りに関わる社会状況・全国>

①死亡者数の変化

出典 厚労省HP



→死亡者数は年々増加

<安城市の実態>

高齢者実態把握調査結果より

人生の最期をどこで迎えたいか？

自宅・・・約5割

入院期間は短縮傾向

病院で最期を迎えることは今後更に困難



自宅や施設を

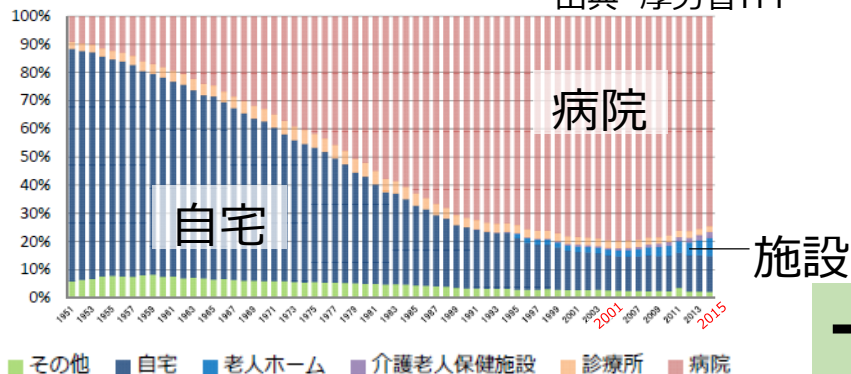
『満足して最期を迎えられる場所』



にすることが大切

②死亡場所の変化

出典 厚労省HP



→病院で亡くなる人が約8割

一人ひとりの生活スタイルに対応した
きめ細かな看取り体制が必要

安城市の看取り体制 目指す姿

『本人が望む場所で自分らしく最期まで今を生きる』



<安城市のこれまでの取り組み結果>

安城市看取り体制支援プラン実践 (各部会で検討テーマ、研修会を実施)
エンドオブライフケア研修会、地域包括ケア研修会、ACPマニュアル研修会等実施
『専門職のためのACPマニュアル』『わたしノート』作成

<安城市看取り体制支援プラン> =

『専門職のためのACPマニュアル』実践
『わたしノート』の運用



- ・ 本人の価値観の把握
- ・ 本人のみでなく家族も意思決定支援を行う
- ・ 支援チームの構築 (= 多職種連携)
- ・ 看取りに関する専門職のスキルアップ



<令和4年度の活動内容>

目指す姿の実現に向け、多職種連携によりACPを実践していく
安城市内の何処であっても、『わたしノート』の運用ができる様にする